

お盆の帰省に合わせた

就職・転職相談会

8月14日、本庁舎大会議室で「お盆のUターン就職・Uターン転職相談会」を開催しました。

進学を機に転出した学生や都市部で働く本市出身者を対象に、お盆の帰省時期に合わせた相談会です。参加者は、求人や就職イベント、住まいに関する物件の情報などを、専任相談員と対面形式で相談。また、市内企業のパンフレットを手に取り、真剣な表情で見比べていました。

15日にも開催予定でしたが、台風10号接近のため中止としました。

《問合せ》環境経済課 ☎21-9008



▲台風が近づく中、午前中だけで5組・8人が来庁して相談

コウノトリ野生復帰を

英国から世界へ発信

8月16～18日、ラトランド・ウオーター(英国)で、世界最大の野鳥観察の展示会「バードフェア」に出展しました。

コウノトリ野生復帰映像の放映やポスターの展示を行った他、中貝市長が日本におけるコウノトリ野生復帰について、英語で講演しました。また、海外メディアや自然保護団体などの発信力のある方と面会し、直接、豊岡の取り組みを伝えました。

今後さまざまな国の方と築いたつながりを生かし、世界へ発信していきます。

《問合せ》コウノトリ共生課

☎21-9017



▲海外のメディアにコウノトリの野生復帰について話す中貝市長

市政 ニュース

～主な市政の動き～

【8月】

- 13日・株式会社ジュンテンドーと災害救助物資の調達に関する協定を締結
- 14日・お盆のUターン就職・Uターン転職相談会
・豊岡市災害警戒本部設置(～16日(台風10号)～)
- 16日・バードフェア2019出展(～18日(英国)～)
- 17日・豊岡市認知症フォーラム
- 23日・第12回永楽館歌舞伎製作懇親会(大阪市)
- 25日・市民総参加訓練

【9月】

- 28日・地域コミュニケーション地域説明会(26日) in 但馬
- 28日・女性活躍地域セミナー
- 30日・市議会定例会開会(～9月27日)
- 2日・西村源斗君(豊岡小5年)にコウノトリ賞を授与
- 6日・創造都市ネットワーク日本創造農村ワークショップ
- 第0回豊岡演劇祭(～8日)



認知症になっても

安心して暮らせる地域に

8月17日、豊岡市民プラザほっとステージで「豊岡市認知症フォーラム」を開催しました。

東京都健康長寿医療センター研究所部長の藤原佳典さんが「みんなので防ぎ、地域で支える認知症」をテーマに講演した後、藤原さんと高石俊一医師、千葉義幸医師とが意見を交換。関係団体からは「認知症の方の服薬管理」や「読み聞かせボランティアの活動紹介」について、発表がありました。

今後も認知症の方の増加が見込まれる中、自分らしく安心して暮らせるための地域の取組みを考えました。

《問合せ》高年介護課 ☎29-0055



▲約400人の聴衆に講演する藤原佳典さん

市民みんなで防災訓練

今年の想定は大地震

8月25日、市内全域で、震度6強の大地震の発生を想定した「市民総参加訓練」を実施しました。

午前8時の防災行政無線放送を合図に、各家庭などで、机の下にもぐって頭を守るなどの安全確保行動訓練を実践した他、津波の恐れがある沿岸部では津波避難訓練を、沿岸部以外では安否確認訓練などを行いました。

同訓練の後、各地で独自の訓練も行われ、コミュニティなかすじでは、中筋小学校体育館で、同地区初の大雨による避難所運営訓練を実施。昨年作成したマニュアルを検証しました。

《問合せ》防災課 ☎23-1111



▲車いすや認知症など支援が必要な方、インフルエンザなど特別な対応が必要な方への対応も確認

中貝市長の徒然日記 ⑬

中貝市長の挨拶・文章作法

政治家として、様々な場面で挨拶をしてきました。文章もどれほど書いたか分かりませんが、その29年に及ぶ経験から得られたマル秘・珠玉のテクニクを開帳するときが、ついに来ました。と、勝手に決めました。

何よりもまず、挨拶は短ければ短いほど喜ばれます。慣れない人はあれこれ言おうとしますが、下手な長い話を聞きたい人は、いません。今までに聞いた最も短い挨拶は、あの国会議員の「○○の開通おめでとうございます。敬意を表し、さらなる発展をお祈りします」というものでした。短いただけで拍手喝采でした。

時候の挨拶も不要です。昨晩雨が降った、などということは、誰もが知っています。いきなり本題に入るのがベストです。故谷洋一先生の挨拶は長くて閉口しましたが、いきなり本題に入る点は見事でした(当時ばかりは先生の挨拶を早く終わらせる係でした)。

主催者として話すネタが浮かばないとき。お世話になった方の名前を順にあげながら心を込めてお礼を言い続けると、不思議と感動を呼びます。感謝する。挨拶は、これが本来の姿なのかもしれません。「。から。」までを短く。ここが長いと論理が伝わりにくくなります。短い言葉を重ねていくと、挨拶でも文章でも、リズムが生まれます。政治家の優れた演説は、大体短い言葉を畳み掛けています。

形容詞・句など、飾る言葉を極力つけない。「母なる円山川」などと形容詞をつけると、字数は稼げますが、多用すると言葉が死にます。形容詞が長いと、聞き手の理解を邪魔します。自身も気を取られ、論旨が飛ぶこともあります。

アーとかウーとか言いそうになっても、ぐっとこらえる。煙草を吸うのと同じで、本人は間を保つために言うのでしようが、煙草が健康に障るのと同様、耳に障ります。とにかく、こらえる。え？明日から挨拶がしにくくなった、ですか？それは、失礼しました。